



ユリルラリガ

C102会場限定ラクガキ本だったかもしれない本
FOR ADULT ONLY

SM調教プレイ快樂に
ハマってしまったスカサハ師匠

肉便器調教にハマってしまった
スカサハ師匠は今日も調教じて欲しいとオレの所に…
それも肛門を躡けて欲しいらしい♪

「なぜか…またアソコが疼いてしまってな…
鍛錬にも身が入らないらずで……
困った体になってしまったものだ…」

照れながらそんなこと言いつつ
師匠のおマンコも肛門もすっきり
準備できてるみたいで

股間からはムワリとイヤらしい匂いが
漂い始めていた♪





「おちんちんっ♥来た♥♥」

どわどわっ

ずばずばっ

「ああ♥あああっ♥♥」

「あっあああ♥♥おっお尻いい♥♥」

「壊れっ……♥あはあっ♥♥♥奥妻いいあああっ♥♥♥」

「おおおっイ…っ♥も…もう…いっ…く♥♥」

ならばとオレは
師匠のバックに周り
チンポでさらに激しくかき混ぜる
ことにした



あま

ずば

ずば



ああっ!?

ずばずば

ずばずば

ずばずば

「あと1時間は逝ったら駄目ですよ
もし逝ったら罰ですよ」

一時間

「ひっ…ひひりかんツツ!!?」

「ぶぐう…む…むひいだ…
そんなにたへるらんで…おおお♡」

「なら奴隷豚みたいに
ブヒブヒ言いながら
なら特別に一回逝っても
いいですよ♪」

豚
「ぶっぶら!?!」

「それが嫌なら
我慢ですよ師匠♪」

「ううううううふうぶぐうっ
あっおおおおおお♡♡
いいぐうううううああああ…っ」

「ブヒィィィィ♡ブヒッ♡♡
ブヒブヒィィ♡♡ブヒィィィィィィ♡♡♡
イグウウウウううううああああ」

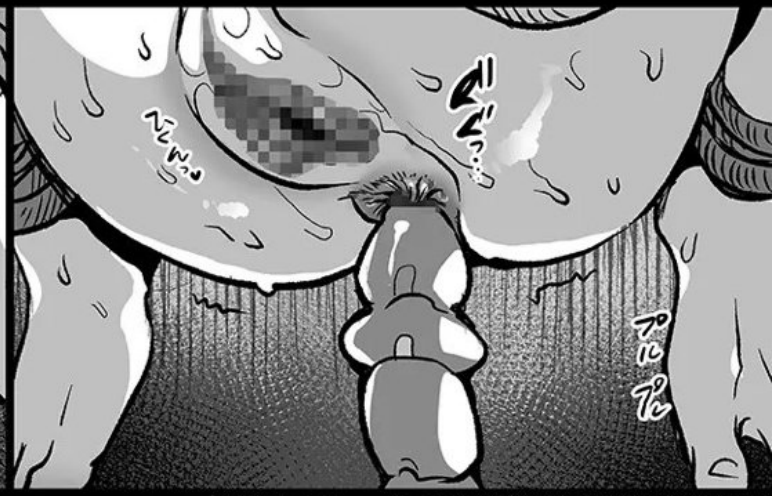


「はあ... はあ... はあ...♡」

その後、何度も絶頂した師匠は
幸せそうでした♪









あや...
あや...
あや...

ふふふふ...
ふふふふ...
ふふふふ...

あや...

あや...

あや...

ふふふふ...
ふふふふ...
ふふふふ...

ふふふふ...
ふふふふ...
ふふふふ...

ふふふふ...
ふふふふ...
ふふふふ...





KUNNIN!

KUNNIN!

KUNNIN!

KUNNIN!

KUNNIN!

R.I.A

Fufufu



ズク...
ズク...

ズク...
ズク...

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ...

ぐわ...

ズク...

ぐわ

ぐわ